

東日本大震災対策ニュース

No.5 2011.3.20

福島医療生協

斎藤紀先生がテレビに生出演

回りの組合員に視聴を呼びかけましょう！

わたり病院医師の斎藤紀(おさむ)先生が、原発事故に伴う放射能の体への影響などについて生出演で答えます。できるだけ多くの組合員に知らせて視聴を呼びかけて下さい。

3月21日(月)午前10時～

テレビユー福島(TUF)

川口さんありがとうございました

被災翌日の12日、単身自家用車で神戸から支援物資を持って駆けつけてくれていた川口さんが、本日午後に戻りました。高齢者などの支援活動をしている「夢の和」の代表で、多くの災害ボランティアの経験がある方。的確な助言をいただき大変助かりました。9日間病院に泊まり込みで支援していただきました。



やっと喉を通った

今日は休日でしたが、午前9時に対策本部前での意志統一の後、参加した組合員・職員が避難所訪問・東高校への炊き出し・支援物資の仕分け分配などに分かれて支援活動に取り組みました。「家が流され、不安で食事が取れない状態だったが、温かい食べ物でやっと喉を通った」などの声がありました。南向台小の避難所訪問で、「明日移動するようだが何か食べ物を届けては」という提案があり、支援物資のフルーツポンチ、インスタントコーヒーとお湯を届けました。

各地の声 募集しています Fax 521-3475

三瓶久子理事：元気ですか・困っていることは・近所の組合員に声をかけて下さいと運営委員の連絡網で電話をかけあいました。「ガソリン・灯油がない」「乳幼児・病人をかかえていて大変」「放射能が心配」などの声がありました。

紺頼純子理事：歩いて組合員を訪問しました。山間地で「ガソリンが無くて給水所に行けない」「デイサービスやヘルパーさんが休みで困っている」という話に胸が痛みましたが、「お話することが出来て、少し気分が良くなった」という声に救われました。

斎藤豊子理事：農民連・民商からの要請を受け、組合員に声をかけて支援物資の荷降ろし・仕分け・荷積みを行いました。「何かしたいと思っていたところに声をかけてもらって良かった」との感想でした。

西元幸子副理事長：1～6丁目の一人暮らしの方に様子を聞いてみました。介護用オムツが足りないという方がいて、医療生協に届いた支援物資から届けました。